

美園トーク スタジオ ONLINE

'20-21 season

日時 2021年3月3日(水) 18:00~20:00
開催 オンライン (Zoomウェビナー)
主催 美園タウンマネジメント協会・みその都市デザイン協議会
運営 (一社)美園タウンマネジメント

進行次第

(敬称略)

17:45

開場

(Zoomウェビナーへ視聴者入室開始)

18:00

開会

趣旨説明・進行説明

事務局 (一社)美園タウンマネジメント：岡本祐輝

18:05

報告 「美園スタジアムタウンビジョン2050」素案について
事務局

18:30

公開座談会 私の思う美園の未来像2050

[登壇者]

白戸秀和 浦和レッドダイヤモンド(株)／ビジョン検討WGメンバー

綾部匡之 大門美園自治会／ゆうすずこどもクリニック

丸 志伸 (株)ベストワーク (かじゅある盆栽販売)

白坂智之 futuristic(株) (ロボティクス関連事業)

[モデレーター]

松浦正浩 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授

19:50

全体総評

松浦正浩

20:00

閉会

要旨

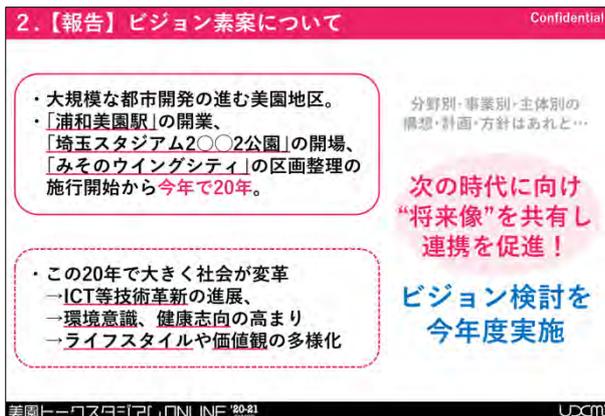
趣旨説明・進行説明（事務局）

- Zoomウェビナーの機能を活用して、投票型アンケートを座談会の中で随時行うことを予定している。匿名回答も可能な設定にしているので、気兼ねなくご回答いただければ有難い。
- まちづくり成果や進捗を報告しながら、今後の課題や取組方向性についてざっくばらんに議論する意見交換会として「美園トークスタジアム」を2019年1月・2020年2月と開催してきた。
 - 今年はコロナ禍において、従来通りの意見交換会の開催が難しく、オンライン開催に代替し、扱うテーマも「地区将来ビジョン」に絞って開催する。



報告（事務局）

- 本地区の都市開発が始まってから20年以上経過しているが、その間に社会情勢も大きく変動した。
- 大規模な都市基盤整備から、個々の敷地・事業単位での取組へ、まちづくりの段階が移行しており、主体間連携を促進させていくために今年度「地区将来ビジョン」の調査・検討を進めた。



※ビジョン素案の詳細は、UDCMi公式サイト内の意見募集ページを参照。

公開座談会「私の思う美園の未来像2050」

□モデレータ解題：松浦氏

- 意見募集の始まったビジョン素案では、「将来像」のターゲットが「2050年」とされているが、現在のご自身の年齢に30を足してみても、このまちでどう生きていたら幸せか？から考えてみてはどうか。

□活動紹介：白戸氏（浦和レッドダイヤモンドズ（株）／ビジョン検討WGメンバー）

- 基本的には、美園は「とんがった存在感」のあるまちになっていくと良いと考えている。
- 浦和レッズと美園との関わりとしては、直接的には2001年に埼玉で初のホームゲームを開催したことから始まる。2005年には、埼玉へ本社を移転し、まちづくりへの参画として「浦和美園サッカータウン振興会」の発足を支援したりした。近年は「みその都市デザイン協議会」に参画し、各種取組に関わるとともに、昨年から埼玉公園の指定管理者にもなっている。
- 埼玉師範学校でサッカーが始まった事を始点とする「埼玉サッカー百年の歴史と伝統」のもとに浦和レッズは活動を続けてきているが、美園の最大の特徴は、「サッカーの聖地・埼玉」があることだろう。2002 FIFA W杯に向け整備された競技場の中では、その後の利用者数は圧倒的に多く、レガシーとなっている。
- 美園は「スタジアム城下町」として、国内最大規模のスタジアム建設を起点にしたまちで、新規にスポーツまちづくりを推進できる稀有なまちだ。
- 浦和レッズとしてこの「スタジアムタウン」への展望は以下。
 - ① 「埼玉あって美園」。世界に誇れるサッカー

浦和レッズの『スタジアムタウン』への展望

「埼玉」「世界」「スポーツと健康の両立」「楽しみと安全の両立」「アクセス」
(1)

①『埼玉あっての浦和美園』。世界に誇れる「サッカーのまち」として、スポーツ文化を維持、発展させるエリア
【埼玉スタジアムの魅力アップ/地域でのスポーツ発展への拠点】

②『さいたまの世界への窓』のひとつ、訪問者が楽しみを感じるエリア
【スタイリッシュでクール（かっこいい）。施策ひとつひとつに知恵と工夫】

③『スポーツと健康』が両立するエリア
【水準の高いスポーツと健康・医療の融合など】

浦和レッズの『スタジアムタウン』への展望

「埼玉」「世界」「スポーツと健康の両立」「楽しみと安全の両立」「アクセス」
(2)

④「訪問者を快適に楽しませること」と「居住者は安全に暮らせること」の『両立』
【試合時は賑やか、日常は穏やか。楽しく安全に歩きまわれる美園】

⑤『アクセスによる快適性と安全性』の進展
【公共交通にシフト。アクセス整備（鉄道延伸、バス専用道建設、歩行者導線寸断回避）】

⑥『デジタル先行は当たり前』『環境配慮は当たり前』のまち
【DX、脱炭素。何よりも住んでいて楽しいまち。外からの資本の導入。民間や住民の創意工夫が活かされる「仕組み」の整備】

一のまちとしてスポーツ文化を維持、発展。

- ② 「世界への窓の一つ」。多くの訪問者が楽しみを感じるエリアに。
- ③ 「スポーツと健康の両立」。スポーツと健康・医療を高度な水準で融合させていく。
- ④ 「訪問者が快適に楽しめることと居住者の安全に暮らせることの両立」。試合時は賑やか、日常は穏やか。
- ⑤ 「アクセスの快適性と安全性の進展」。最大で6万3千人の訪問する一大イベント拠点であり、公共交通シフト等。
- ⑥ 「デジタル先行・環境配慮は当たり前」。外からの資本導入と、住んでいる人の創意工夫を引き出す「仕組み」づくり。

【白戸氏から視聴者への投票型アンケート】

Q: 美園が輝き繁栄していくには、埼玉スタジアムの魅力が不可欠だと思いますか？

非常にそう思う	74%
ややそう思う	26%
ややそう思わない	0%
全くそう思わない	0%
わからない	0%

白戸) アンケート結果を受けて、極めて心強いと

思う一方で、クラブとしては非常に重い責任を負っているのだと率直に思う。レッズへの声援が、“騒音”では無く、心地よいものとして地域に浸透していくのが理想だ。

松浦) チャット欄に「レッズは具体的に地域とどう関わるか？」といった質問が来ている。

白戸) 地域とのコミュニケーションを通じて、例えばこのような対話の場面をつくっていくこともそうだし、スクールなど実際の行動にしていく事が最初は考えられる。地域の中に自然に存在する存在になるべきであり、これはすぐには実現しないだろうが、トップチームが埼玉の中で常に活動をしている、まちの中にいるという姿がベストだとは思っている。

□活動紹介：綾部氏（ゆうすずこどもクリニック／大門美園自治会）

- レッズサポーターが高じて転居してきたが、美園での居住歴は10年ほど。
- 私自身、研究者としての活動も長く行ってきたので、それまでの“当たり前”を疑う事を心掛けている。来院される患者さんが待合室で長時間待機していたり、定期通院する子どもが学校を早退しなければならない診療時間設定等、疑問に思う部分もあり、ゆうすずこどもクリニックでは完全予約制、夕方や日曜開院等の運営を行なっている。
- 医師としてクリニックに来る患者さんだけでなく、クリニックの外に出て地域で患者を生まないような取組もしていく必要があると考えている。
 - 子ども達のレジリエンスを育てていくために、これまで保護者向けの勉強会等を開催してきたが、今後はビジョントレーニング教室やジュニアパーソナルトレーニング等を開始していく予定だ。
- 医師としての活動の他にも、昨年より一住民と

地域の子供達へのアプローチ（コロナ禍以降）
“子ども向け少人数教室”

ジュニアパーソナルトレーニング（予定）



して自治会長としての活動も行なっている。

- ▶ 従来の自治会活動の中には今の世の中に合わない部分もあるかもしれない。自治会への加入について、デメリットに感じることを減らし、メリットを増やしていきたい。
- 子ども達がこのまちに住んで良かった、と思ってもらえることを目指したい。コロナ禍で大きく社会が変動している最中だが、子ども達は大人の姿を見ている。それに応えられる大人でありたい。

【綾部氏から視聴者への投票型アンケート】

Q：自粛中の地域活動（自治会・PTA等）について、コロナ禍収束後どうしていくのが望ましいとお考えですか？

以前と同じ活動を再開する	4%
活動内容を一部見直して再開する	57%
再開せず、別の活動をする	13%
活動をやめる	0%
参加してないのでわからない	26%

松浦) 現在の自治会の加入率は？

綾部) コロナ前の1/5程度になっている。自治会の活動としては、防災面が気になっているところ。例えば水害が発生したら、日中郡内等へ勤務に出る人も多いこのまちは果たして機能するのか？といった観点だ。

松浦) チャット欄に「災害が起きたことにどう行動すれば良いか分からない」、「自治会の防災活動は何をしているか？」といった質問が来ている。

綾部) 美園小を囲む4自治会で集まって防災訓練等はしている。が、例えば日中に発災した場合にイオンへの来店者が避難所に来たら…といったことなど懸念される。

□活動紹介：丸氏（株）ベストワーク

- 約330年前から続く農家だが、学校を出た後は



①かじゅある盆栽 2020年秋 有楽町・交通会館マルシェにて



しばらく都内で人材開発コンサルタントとして勤務していた。家の代替わりを契機に、2013年より自家の農地・宅地を生かした事業を模索中である。

- 埼玉から北に2.5kmほどにある自宅(兼)事業所の周囲には、昔ながらの農村の原風景が残っているが、そこを拠点に農業を軸に、福祉や観光を交えた「見沼の元気化」に向けた活動を行っている。
- 問題意識としては、美園の一帯は植木生産が盛んで、往時は全国で三本指に入る程だったが、いま生産量も落ちていて、産業として途絶えかねない状況にある。
 - ▶ 農業従事者の高齢化や、若い世代の農業離れも影響。
 - ▶ 子ども達が自宅と学校や塾の往復で毎日が終わっており、地域に固有の産業がありながらも、それを知るきっかけがない。
- 事業としては、生産した鉢植えを「かじゅある盆栽」として都内でのイベント等に出店・販売を行っている他、障がい者支援団体と連携しながら障がい者に生産作業に携わってもらう取組や、今後は旧自宅のレストハウス改修も予定している。

- まずは盆栽・庭木の植木業やレストハウスを拠点とする事業を自走化させ、徐々に地域の観光農園・農業体験等と連携の輪を広げていき、外にも発信していけるようにしたい。

【丸部氏から視聴者への投票型アンケート】

Q：あなたのご自宅（敷地やベランダ、居室等）に、鉢植えや盆栽はいくつありますか？
※予め整備された生垣や花壇等は含めず。

0鉢	42%
1～2鉢	32%
3鉢以上	26%

丸) 都内の有楽町等で出展・販売していると、購入される方の中に「初めて鉢植えを育てる」という方もいる。地域の固有の産業として、もっと盆栽や植木が身近なものにしていきたい。

□活動紹介：白坂氏（futuristic株）

- 浦和美園駅の東側・西側含めて、7年間美園に住んでいるが、ロボット事業を展開する会社を起業している。もともとミュージシャン（ギター）ではあったが、フランスのロボット会社に就職し、以降プログラミング等を学んだ。
- 昔の人も未来を、例えば100年後を色々想像していたりする。そのアイデアの中には、形を変えて実現しているものもあったり、あるいは今から考えると変なものもあったりするが、そうした発想をテクノロジーを駆使して実現したら面白いのではないかと考えている。
- 現在は、自律走行ロボットや、紫外線照射（衛生対策）ロボット、コミュニケーション用のフェイスロボット、四足歩行ロボットを取り扱っている。ちなみにコロナ前はオンライン会議ツールも扱っていたが、Zoomの性能が良過ぎるので今は取り扱っていない。
- ロボットの受注・販売の他にも、ロボットやIoTに係る教育・研修、受託事業も手がけている。
- このまちでロボットをどう活用していけるか、UDCMiを拠点に開催されている（現在はオンライン代替中の）交流会「水曜日の雑談カイギ」にて昨年11月に意見交換を行なった際に、2つのアイデアが浮上した。
 - 人々の愚痴を聴くコミュニケーションロボット：悩みを口に出すだけで解決が図られることもある。
 - 非対面販売を支援するロボット：見沼田んぼ周辺で採れた野菜を販売する等のアイデアが出ていた。

浦和美園ロボットサービス 第一弾

ロボットサービスの第一弾として、
見沼田んぼ周辺で採れた野菜の非対面販売を実施



概要
コミュニケーションロボットを使って対話による注文受付、自律搬送ロボットで商品と金銭の受け渡しをおこなう。

システム名 Vegetable transportation sales system 略して VTSS



- 現在、後者の非対面販売ロボットは、浦和美園駅で実験的に活用してみる企画を検討中である。
 - 効率自体は必ずしも良く無いかも知れないが、接触回避した売り方自体の話題性はあるので、これを契機とした今後の展開を期待している。

【白坂氏から視聴者への投票型アンケート】

Q：先進技術を生かした社会実験が地域で行われる際に、どう関わりたいですか？

積極的に参画したい（事業運営等）	39%
協力・支援したい（ボランティア等）	22%
ユーザーとして参加したい	22%
興味はあるが、なかなか時間がない	17%
関わりたくない	0%
わからない	0%

白坂) 何らかの関わりを持ちたい意見の方が想像以上に多い。

松浦) この種のトークイベントを視聴する人は、元々関心の高い人が多いという事も影響しているだろう。

□意見交換

松浦) 白戸氏に伺うが、農業やロボット等多岐に亘る取組紹介があったが、連携できそうな話題はあったか？

白戸) まちと周辺の自然とのリンク、そこにスポーツ・健康、さらにICTやロボットを組み合わせせていく姿が見えたし、当クラブもサッカーだけでなく、スポーツを通じて連携していきたい。白坂さんのような新しい取組が自由に出てくるような「仕組み」のあるまちにしていくのが良いのではないか。

埼玉での取組としては、現在はデジタルサイネージがあるくらい。チケットレス入場も実験したりはしているが、セキュリティ面でハードルがあるのも実際のところだ。

松浦) 綾部氏に伺うが、埼玉や観光、ロボット等と子どものための環境づくりとのつながりはどう考えられるか？

綾部) 子ども達が楽しんで学べるように、という観点では、ロボットや農業体験等は連携が考えうる。

白戸) 当クラブとして実施している「ハートフルクラブ」は、Jリーグの中でも特筆すべき取組である。まずは「観戦学習会」を通じて地域の子ども達にスタジアム観戦の素晴らしさを知っていただくこと。一方で、ファンサポーター会員向けには特典での還元を行なってきた。従来の取組に加えて、より多様な機会をつくっていければと考えている。

丸) なるべく多くの方に、地域の植木産業の素晴らしさを知っていただきたい。ジャストアイデアだが、例えば「赤き血のイレブン」に擬えて、赤い実の成る盆栽を11種類揃えて「赤いものイレブン」として連携PRしていく等はいかがか？

白戸) 浦和レッズとしても、10年ほど前に薔薇のオリジナル品種「レッズローズ」を開発している。今の提案も非常に興味深い。

全体講評（松浦氏）

- 登壇された皆さんが気にしている点は類似していたように思う。
 - ▶ 子ども達が地域を知り、継承していってくれる。
 - ▶ 美園発の多種多様な活動がさらに増え、それらが個別単体ではなく、相互に連携して進められれば良い。
- そうして連携を深めていければ、30年後にさ魅力的なまちになっているのではないか。

以 上